令和４年　１０月　第４５６号

浄恩寺同朋会報

電話　０５２－８８１－８４７４

真宗大谷派 浄恩寺

LINE　QR コード

令和４年度「報恩講法要」十一月十三日（日）十時

日々、感染者数が減少しておりますが、油断できない現状かと思います。今年は、午前のみの法要をお勤めします。

午前十時からお勤め開始、十時三十分法話「荒山　優」　十二時終了

永代経同様、納骨堂より、お骨を本堂に安置して、先人と共に聴聞する法会にさせていただきます。

九月は、御葬儀が続きました。コロナで亡くなったかたも二人ありました。

二十歳の青年の訃報には耳を疑いました。中学、高校とサッカー選手として活躍、私もサッカーの顧問をしていましたから、逢うと話題はサッカー。

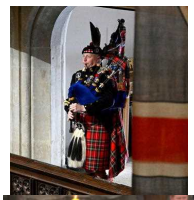
高校三年生で白血病を発症していたことを知りませんでした。闘病と受験、当初の目標、数学科の教師になるために、名城大学数学科に合格。しかし、もう一つの夢は、薬剤師でした。一年間、その夢を実現するため、病気と闘いながら勉強されたそうです。結果は、名城大学薬学部特待生合格。夢は、現実のものとなりましたが、病状が悪化。彼が登校したのは、休学届を提出に行かれた時。その後、治療は過酷を極められたそうですが、最期まで弱音を吐かなかず、担当医からも尊敬の念を抱かれたそうです。

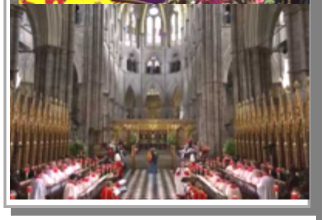
最後にもう一度、大学に登校させてあげたい。ご両親の希望を大学に伝えると、是非お迎えしたいと返事をいただきました、彼は、登校時に着ると決めていたスーツを着ました。そして、キャンパスを出る寸前、一人の教授が走ってみえました。私がお願いした教授でした。私がお礼を述べると、先生は、「よろしくお願いします」と、私に声をかけてくれました。「私の学生をしあわせへ導いて下さい。」私にはそう聞こえました。

「女王陛下のお葬式」

厳粛、荘厳、伝統、親愛、そんな言葉が心に浮かぶお葬式だったと感じました。

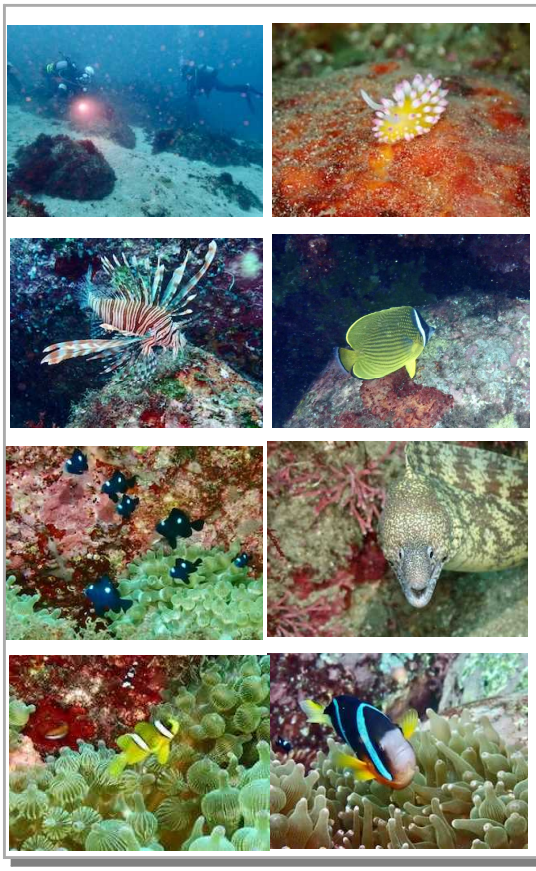
最後２分間の黙祷のあと・・・バグパイプの音色が響きました。心に深く深く沁みる音色でした。





「台風間近の海」

海中は暗く、ウネリもは入り、潜れる海域は限られていましたが、気持ちよく過ごせました。



残暑厳しい９月、ふくたらは、エアコンの効いたお部屋で・・・